



華となれ!

宮城県仙台二華中学校
学校だより 第16号
【発行日】平成28年7月13日
【連絡先】022-296-8104
【文責】教諭(研究主任)
畠山 大輔

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

「中学2・3年生北上川フィールドワーク」 ～ヨシ原の再生から、環境問題を考える～

去る7月8日(金)、石巻市北上町橋浦大須地区の北上川河口付近において、中学2・3年生合同で「北上川フィールドワーク」が行われました。主な活動内容は、震災によって失われた「ヨシの移植活動」と、「干潟の生物の観察」です。東北工業大学の山田一裕教授のご指導のもと、生徒たちは一生懸命ヨシの移植活動を行っていました。



植える箇所をスコップで掘る作業



移植の際の留意点を説明する山田教授と
真剣に聞く生徒たち

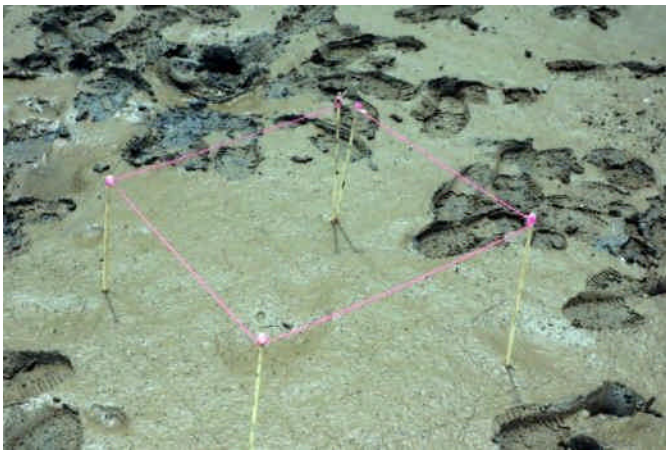
ぬかるみに足をとられ、服や顔に泥をつけながらも、みんなで協力して懸命にヨシを運ぶ生徒たちの姿を見た地元の方々からは、「ありがたいことだねえ」と感謝の言葉をいただきました。この北上川を、離れた土地に住む人々が気にかけて、訪れてくれたことが嬉しいのだとおっしゃっていました。

かつて、北上川河口はヤマトシジミの一大生息地でした。しかし、ヨシ原の消失により塩分濃度が高くなったため、以前のように生息できなくなりました。ヨシ原は、ヤマトシジミをはじめとして多くの野生生物にとって無くてはならない存在であると改めて感じました。

また、山田教授によれば、ヨシ原のもつ環境保全機能は極めて高く、ヨシ原100ヘクタールの汚水浄化力は、約30万人(青葉区人口)の汚水処理機能に匹敵するのだそうです。



ヤマトシジミ発見！！地元では通称「べっこう シジミ」と呼ばれているそうです
はりきりすぎて泥に足をとられてしまった人も



生徒たちが作ったコドラート（方形区）



大量のハゼを捕まえた班（もちろん、
観察後は急いで川へリリース）

一方、高校の生物を担当している佐々木洋先生の指導で行われた「干潟の生物の観察」では、生き生きと観察・記録に取り組みました。多くの人がかにやハゼ、ヤマトシジミ、ゴカイなどの捕獲に成功し、あちらこちらから歓声が聞こえました。中には、跳ねて逃げるハゼを思わず手でつかもうと追いかけてしまい、あわてた佐々木先生から「網を使いなさい！網を使いなさい！！」とたしなめられる一幕もありました。



会長の熊谷さん

昼食後は、国宝重要文化財保存修理や屋根の茅葺き工事などを生業とする熊谷産業を訪問し、会長の熊谷貞好さんとNPO法人リアスの森の武山文衛さんから、北上川の歴史や大震災後の状態について講話をしていただきました。

今回、ヨシ原を守る活動に実際に参加し、現場を見たり体験したりすることで、環境問題について考えを深めました。普段の学校生活では学ぶことのできない多くのことを、生徒たちは勉強することができた1日となりました。